



## ベトナムの銀行事情について

2009 年 12 月 24 日に北陸銀行は地銀で初めて「ベトナム銀行」と業務協力協定を結びました。既にベトナム計画投資省の外国投資庁と経済協力協定を締結しておりましたが、今回の提携で支援体制を強化します。今回はベトナムの銀行事情について紹介させていただきます。

### 1. ベトナムの銀行の歴史



#### (ベトナム国旗・国章)

##### (1) ベトナムの銀行の始まりについて

近代的なベトナムの商業銀行の歴史は、1988 年、市場経済化政策によりモノ・バンクシステム(1 つの国営銀行が金融業務を独占するシステム)が崩壊。中央銀行であり商業銀行機能も兼ねていたベトナム国家銀行が中央銀行として再編され、国有商業銀行と分離されました。現在は 4 行の大手国有商業銀行が存在します。(5 行という説もあります)

##### (2) 市場経済自由化について

2007 年 1 月 WTO 正式加盟に伴う金融自由化政策により駐在員事務所・支店・出資比率 50% 以内の合弁銀行が解放となり、その後、外資 100% 商業銀行の参入も可能となりました。ベトナムは社会主義国家であり、国有企業に対しては原則国有銀行が融資を行い、実質的に民間商業銀行の融資参入は不可能でした。しかし、金融自由化に舵を切った後、昨年は国有商業銀行も上場を開始しました。上場株式の外国人保有は 30% 以内と制限されていますが、外資の参入を進めている状況です。ちなみにベトナム銀行も 2009 年株式上場を果たしました。ベトナムの銀行の歴史は実質的には 20 年程度と浅いのですが、金融自由化を契機に一気に外資系金融機関が参入し、国際化が進んだという状況下にあります。

### 2. 銀行取引の留意点

#### (1) 銀行口座の開設

外資系企業は、ベトナム国内の銀行等(外銀支店含)において VND 口座及び外貨建口座を開設し、国内で資金決済を行うことができます。尚、ベトナム国外の銀行等での口座の開設についてはベトナム国家銀行の許可を得る必要があります。口座の種類は①資本金口座②経常口座③定期預金口座があり、資本金口座は原則 1 社 1 銀行に限定されております。また、資本取引(具体的には外国からの直接投資・配当金の送金・期間 1 年超の借入や返済、利息支払送金等)は必ず資本金口座を使用することが義務付けられています。

#### (2) 資金調達

一番の問題点は、為替レートが VND 安で推移しているため、US\$ が市場に出ず、US\$ 資金の調達がしにくいことです(下記為替レート推移参照)。また、この公表レートとは別に闇市

場での取引レートがあり、ダブルスタンダードが発生しているようです。通貨安が進んでいることから US\$を手元に保有する企業も多く、そのため決済は US\$建での決済ではなく他通貨 (VND 建)での決済を求められたり、同額の US\$建預金を積むことを強要されたりすることもあるそうです。ベトナム国家銀行も①強制的に国営企業からUS\$を買い上げる。②公定歩合を7%から8%に利上げする。③金融機関に対する外貨資金準備率を減らす等 US\$資金を供給するように方策は行っておりますが、為替レートが安定するかどうかは不明です。

<参考> VNDの対USD為替レート推移 [VND/1US\$]

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2010. 2.26
ベトナムドン	15,746	15,858	15,994	16,105	16,302	18,945

出所: JETRO HP (期中平均レートより) 最安値は 2009 年 11 月 23 日の 19,804

### 3. おわりに

ベトナム経済は、2009 年はリーマンショックの影響を受け GDP 成長率は減速し、輸出・輸入額も落込んでいましたが、GDP 成長率は 5%程度を確保、2010 年は 7%成長の見通しです。また、輸入額・輸出額共に 2010 年 1 月実績は前年同月比プラスに転じ、回復基調にあります。

	2005	2006	2007	2008	2009
名目 GDP 総額 (10 億 VND)	839,211	974,266	1,143,715	1,477,717	1,645,481
実質 GDP 成長率 (%)	8.4%	8.2%	8.5%	6.2%	5.2%
輸出額 (100 万 US\$)	32,447	39,826	48,561	62,685	56,580
輸入額 (100 万 US\$)	36,761	44,891	62,765	80,714	68,830

出所: JETRO HP 2009 年はベトナム統計局発表記事より

ベトナム国内の銀行動向については、①ベトナム自体が US\$建の資金が不足気味のため、公定相場と実勢相場の差が拡大しており、結果として US\$建の融資を受けられない可能性がある②金融自由化の流れの中で地場銀行と外資銀行との競争激化により勢力図が変化する可能性があるという注意点がございます。また、実際に進出する上では今回の銀行動向だけでなく、ベトナム国についての理解を深め、ご検討いただければと思います。

※本件執筆に際し、以下の資料を参考にしました。

・金子 由芳・・・ベトナム (歴史について)

<http://www.fsa.go.jp/news/19/sonota/20070711-1/03-8.pdf>

・ベトナムの投資環境・・・JBIC 2008 年 4 月号

・ブルーチップベトナム投資ニュースサイト

<http://www.bcc-jp.com/>

以上